



令和5年3月31日
九州地方整備局
鹿児島港湾・空港整備事務所

鹿児島港の中長期的なビジョンをとりまとめました

○九州地方整備局では、九州管内港湾において、概ね20～30年先を見据え、港湾の将来像を検討するため、モデル港の1つとして鹿児島港を選定し、今後必要と想定される港湾の機能・役割に対応するための施策等を、「鹿児島港の中長期的なビジョン」としてとりまとめました。

○九州南部に位置する鹿児島港は、離島への玄関口として、大隅半島や離島など県内を結ぶ定期船が多数就航しており、人流・物流の拠点として、住民の生活を支える重要な役割を果たしてきました。

○鹿児島港を取り巻く情勢は大きく変化しており、「鹿児島港をモデル港とした九州管内港湾における中長期ビジョンに関する勉強会」において、ふ頭間アクセスの脆弱性、用地不足や地域防災力の向上といった意見が出され、その対応策について、港湾利用者や行政関係者との議論を進めてきました。

○今般、計3回にわたる勉強会での議論を踏まえ、「鹿児島港の中長期的なビジョン」としてとりまとめを行いました。

【添付資料】

- ・別紙1 勉強会構成員
- ・別紙2 鹿児島港の中長期的なビジョン

【問い合わせ先】

国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課 TEL:092-418-3358

港湾計画課長 栗畑（くわはた）

国土交通省 九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所 TEL:099-223-3296

企画調整課長 西岡（にしおか）

鹿児島港をモデル港とした
九州管内港湾における中長期ビジョンに関する勉強会
構成員等

(敬称略、順不同)

(構成員)

【企業・団体】

NPO法人 ゆめみなと鹿児島

鹿児島経済同友会

鹿児島港運協会

鹿児島県倉庫協会

鹿児島県旅客船協会

鹿児島商工会議所

【行政】

鹿児島県 土木部 港湾空港課

鹿児島市 都市計画部 都市計画課

九州地方整備局 鹿児島港湾・空港整備事務所

(事務局)

九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課

鹿児島港湾・空港整備事務所

1. はじめに

九州地方整備局では、九州管内港湾において、概ね20～30年先を見据え、港湾の将来像を検討するため、モデル港の1つとして鹿児島港を選定し、今後必要と想定される港湾の機能・役割に対応するための施策等を整理することを目的として、港湾利用者や行政関係者等による議論を踏まえ「鹿児島港の中長期的なビジョン」をとりまとめた。（今回の中長期的なビジョンにおいて、現況、課題、役割と取組の方向性、取組方策、広域的なゾーニングまでの整理を行った。今後、九州港湾の参考としていく。）

2. 現況

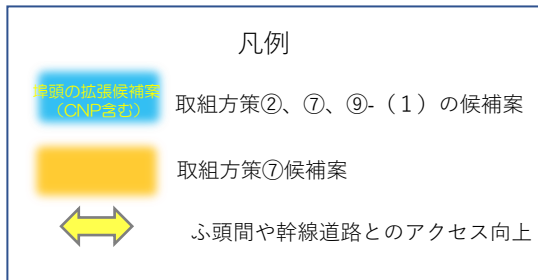
九州南部に位置する鹿児島港は、離島への玄関口として、大隅半島や離島など県内を結ぶ定期船が多数就航。人流・物流の拠点として、住民の生活を支える重要な役割を果たしている。近年、鹿児島港では、マリポートかごしまに新たな2バース目の岸壁が整備され、クルーズ船2隻同時接岸が可能となった。また、背後の幹線道路が慢性的に渋滞し、円滑な港湾物流に支障が生じている。加えて、自然災害の激甚化、脱炭素化社会への取り組み等、港を取り巻く社会情勢は大きく変化している。

<地域の現況>

- 鹿児島市の人口は減少傾向で、老年人口の割合が増加。
- 就業人口は約25万人で、第1次産業・第2次産業の減少が続いている。（「卸売業・小売業」、「医療・福祉」の就業人口が多く、次いで「宿泊業・飲食サービス業」、「製造業」）
- 鹿児島港周辺の主な立地企業は、ENEOS(株)、日本ガス(株)、パシフィックグレースセンター(株)、UBE三菱セメント(株)など。

<港湾取扱貨物>

- 総取扱貨物量：2,711万トン（2021）
（うちフェリー貨物：2,140万トン）
- 外貿：輸出では、原木の取り扱いが多く、輸入では、とうもろこしが多い。
- 内貿：移出、移入ともに、フェリー貨物が大半を占めている。



3. 課題

（1）物流・産業に関する課題

- 将来的な人口減少、労働者不足
- 慢性的な道路渋滞
- ぶ頭間のアクセスの脆弱性
- 企業誘致・産業振興のための用地の不足

（2）人流・賑わいに関する課題

- 海辺における賑わいづくり
- 人流・賑わいと物流（離島向けフェリー等）の棲み分け
- マリポートかごしま周辺の渋滞
- 港内に多くの放置艇がある

（3）防災・減災に関する課題

- 岸壁や上屋の老朽化
- 火山灰・土石流土砂の処分場不足
- 災害時の物資輸送拠点の脆弱性

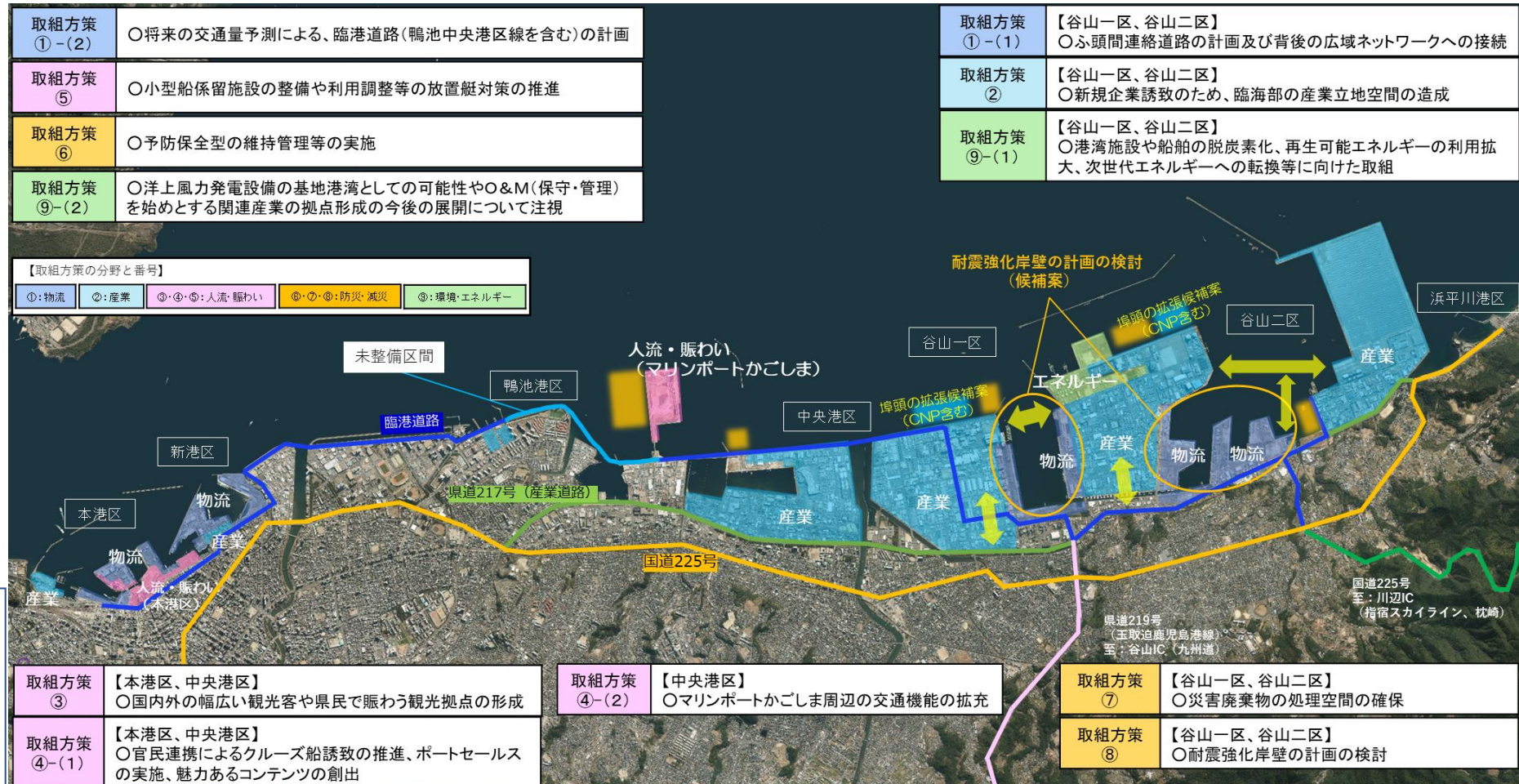
（4）環境・エネルギーに関する検討項目

- 脱炭素化に向けた鹿児島港の機能、受入基地の将来需要の検討
- 洋上風力発電の基地港湾としての必要性の検証

4. 役割と取組の方向性

役割	取組の方向性
A. 物流・人流の円滑化・効率化に貢献する鹿児島港	①人流・物流の円滑化効率化を図るため、臨港交通施設の機能強化を図る。
B. 地域経済の活性化に貢献する鹿児島港	②臨海部空間を活用した企業誘致などを通じて鹿児島港の振興を図る。
C. 親しみのある賑わい空間の創出に貢献する鹿児島港	③鹿児島港の魅力を高める賑わい空間の形成を図る。
	④クルーズ船の受入環境の改善、体制強化により誘客の強化を図る。
	⑤小型船の収容のため、適正で利用しやすい環境づくりを図る。
D. 地域防災力の向上に貢献する鹿児島港	⑥老朽化により施設利用に支障が生じないように維持管理の強化を図る。
	⑦大規模噴火等での火山灰・土石流土砂の処分や軽石が漂着した場合等に備え、災害廃棄物の処理空間の確保を図る。
E. 脱炭素社会に貢献する鹿児島港	⑧災害時の物資輸送拠点として、耐震強化岸壁の計画を図る。
	⑨官民の連携によるCNP（カーボンニュートラルポート）の形成を推進する。

5. 取組方策・広域的なゾーニング



※北ぶ頭及び南ぶ頭を含む本港区エリア帯の活用については「鹿児島港本港区エリア帯の活用に係る検討委員会」の検討内容を十分考慮することとする。